被服が対人認知に及ぼす影響（第2報）

―形態・色彩―

石原久代・鈴木妃美子*

Effect of Clothing on Personal Perception(II)

―Silhouette and Color―

Hisayo ISHIHARA and Himiko SUZUKI

緒　言

被服は本来人体の保護を目的として作られたものであるが，その目的も社会性が高まるとともに審美的な要素が強くなり，自己表現の媒体として重要視される傾向が非常に高くなってきている．また，我々は初対面の人物に対して，その人物に関する予備知識が全くなく，さらに一度も会話したことがない場合，その人物を知る手掛かりとして顔面の印象や体型または着用している被服等により対人認知を行っているといえる．対人認知に被服が関与することは，これまでの研究からも明らかにされているが，顔面の印象と着装イメージがどのような関係にあるかについては解明されていないのが現状である．

そこで，前報[1]において顔面の印象で性格が異なると判定された人物らにイメージの異なる種々の被服を着用させ，対人認知に被服がどの程度関与するかについて検討した．その結果，着用する被服によって印象はかなり異なり，同一の被服を着用した場合，どの着用者もかなり近いイメージが得られ，さらに特徴のある服種程，個人差が小さいという結果が得られたため今回は着用する被服のどのような因子が対人認知に大きく関与するかについて，形態と色彩に分けて検討した．色彩については色票による実験だけでなく，服装色として実際に着装したブラウスとスカートの色彩についても検討を行った．

方　法

1．形　態

形態の試料としてトップにはブラウスを，ボトムにはタイトスカート，フレアースカート，パンツの3種を採用した．

ブラウスについては図1に示すように，そではギャザースリーブ，タイトスリーブの2種を，えりはラウンドネック，スクエアネック，フラットカラー，テーラーカラー，ボーカラー，台えり付カラーの6種を選出し，両者を組み合せて計12種を試料とした．

ボトムについては，各々の丈を3段階に変化させた9種を用い，さらにトップ，ボトムを組み合わせ，全体で108種の形態を白紙に黒ロットリングで約1/10大の大きさに描いたものを試

*名古屋女子文化短期大学

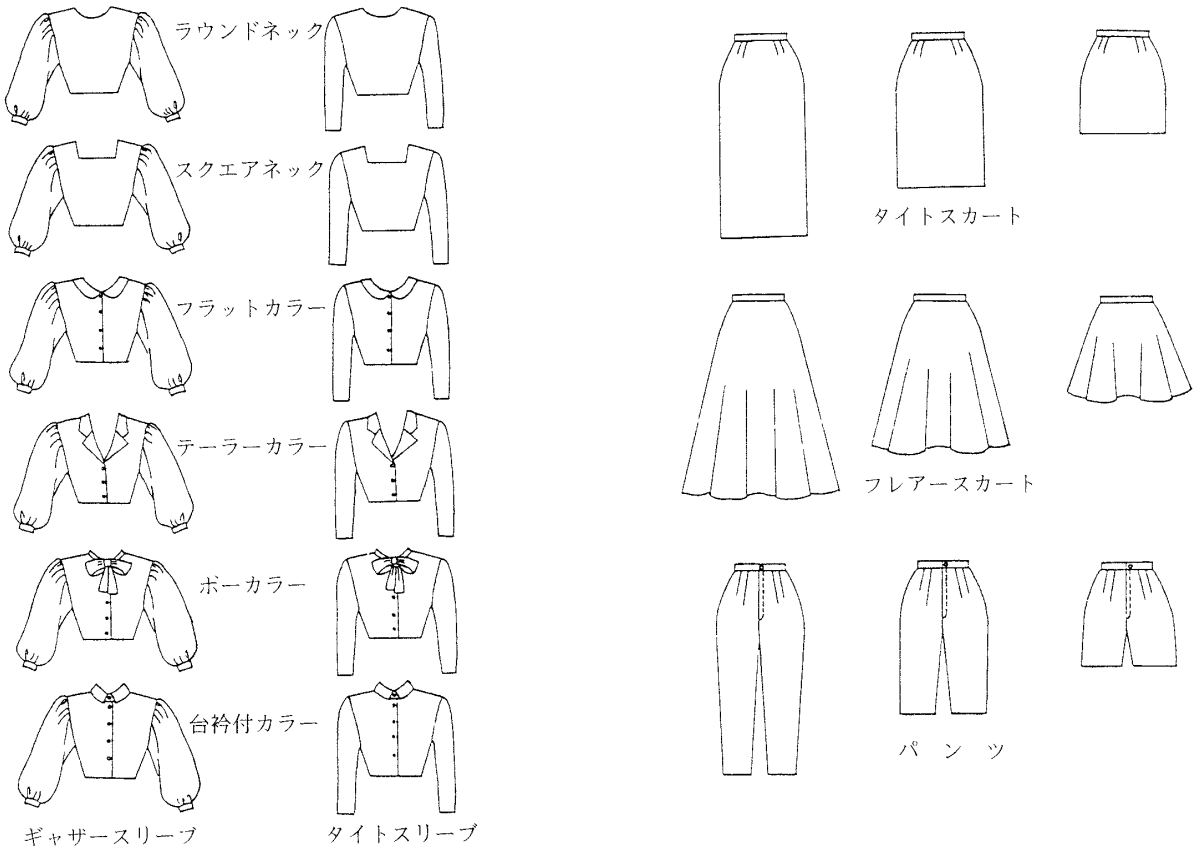

図1　形態試料

料とした.

検査は被験者1名ずつにて行い，まず1試料を提示し，前報と同様の「やさしい―きつい」「積極的な―消極的な」「陽気な―陰気な」「男性的な―女性的な」「上品な―下品な」「大人っぽい―子供っぽい」「奇抜な―平凡な」「派手な―地味な」「おとなしい―荒々しい」「好感がもてる―好感がもてない」の10形容詞対についてＳＤ法[2]により評価させ，次いで2試料目を提示して評価させるというように試料ごとに10形容詞対を同時に評価させた.

また，検査にあたり5段階の各段階には，程度量副詞は提示せず，数値のみを付与して評価させ[3]，さらに提示順位は順序効果がおきないようにランダムとし，被験者ごとに順序を変えて検査した．なお，被験者は本学学生107名，検査実施期間は1992年1月～2月であった.

得られた結果を数値化し，クラスター分析を行うとともに数量化II類により，イメージに関与する要因の検討を行った.

2.　色彩（色票）

色彩のイメージについて，服装色に用いる色彩の選出にあたり偏りを避けるために，まず色票によるイメージの測定を行った．表1に示したようなPCCS（日本色彩研究所配色体系）のトーンの中からビビット(v)，ライト(lt)，ペール(p)，ダーク(dk)，グレイッシュ(g)の5トーンを選出し，色相は24分割の中から偶数番号の12色相を取り出した．これに無彩色の白，黒および灰色3色の5色を加えた65色を使用色として選出した.

試料は，この65色について日本色彩研究所製色票を用い，各々一辺が1.5㎝の正方形になるように切断し，グレー（N6.0)の台紙に65色全てを貼付したものを用いた.

表１　色彩検査試料

色相＼トーン	ビビット (v)	ライト (lt)	ペール (p)	ダーク (dk)	グレイシュ (g)
2	4R4.5/14	4R7.5/8	4R8.5/3.5	4R2.4/6	4R3.5/3
4	10R5.5/14	10R7/12	10R8.5/3.5	10R3/6	10R3.5/3
6	8YR7/14	8YR8.5/8	8YR9/3	8YR3.5/6	8YR4/2.5
8	5Y8/13.5	5Y9/7	5Y9/3	5Y4/5.5	5Y4/2.5
10	4GY7/12	4GY8.5/7	4GY9/3	4GY3.5/5	4GY4/2.5
12	4G5.5/10.5	4G8/6.5	4G8.5/2	4G3/5	4G3.5/2
14	5BG4.5/10	5BG7.5/6.5	5BG8.5/2	5BG2.4/5	5BG3.5/2
16	5B4/11	5B7/7	5B8/2.5	5B2/5.5	5B3/2
18	3PB3.5/13	3PB6.5/8	3PB8/3.5	3PB1.8/6	3PB3/3
20	9PB3.5/13	9PB6.5/8	9PB8/3.5	9PB1.8/6	9PB3/3
22	6P3.5/12.5	6P6.5/8	6P8/3.5	6P1.8/6	6P3/3
24	6RP4/13.5	6RP7/8	6RP8/3.5	6RP2/6	6RP3/3
無彩色	N1.5	N3.5	N5.5	N7.5	N9.5

検査は，形態の検査で用いた10形容詞対を対語20語として提示し，各形容詞について65色の中から，最も適応するイメージをもつ色彩を101名の検査者に選出させた．なお，検査実施期間は1992年２月であった．

3．色彩（服装色）

実際の服装色のイメージを測定するために，着装者は，前報において若い女性の顔面写真の印象を基にクラスター分析により選出された６名の着用者の中で，最も好感のもたれた１名を選出した．

この着装者にポリエステルデシンで作製したラウンドネックのブラウスとウールジョーゼットで作製したひざ丈のタイトスカートを着用させ，写真撮影を行った．

これをイメージスキャナーにより4D-box x 68000 PRO HD(JUN仕様）のグラフック・コンピュータに取り込み，ブラウスの色彩は先の色票における検査の結果，この20形容詞に大きく関与する色彩として，赤，黄，青，紫の４色相の出現が多かったため，表２に示したような４色相における各高彩度，高明度の８色に白を加えた９色に色彩変換した．スカートは赤および青色相の高彩度，高明度，低明度の各３色と，黄，紫色相の高彩度，低明度の各２色に黒を加えた11色に変換し，計93種をカラースライドに作成した．

表２　服装色

色		彩	ブラウス（試料番号）	スカート（試料番号）
赤	高彩度	7.5R4/14	1	1
	高明度	5R9/2	2	2
	低明度	7.5R3/6		3
黄	高彩度	5Y8/12	3	4
	高明度	5Y9/4	4	
	低明度	5Y5/6		5
青	高彩度	10B5/10	5	6
	高明度	10B9/2	6	7
	低明度	10B3/8		8
紫	高彩度	6P3.5/12.5	7	9
	高明度	7.5P9/2	8	
	低明度	7.5P3/6		10
白		N9.5	9	
黒		N1.5		11

これらのスライドをプロジェクターによりほぼ等身大になるように投影し，先の検査と異なる71名の本学学生を検査者として，形態の検査と同様の10形容詞対を用いて官能検査を行った．なお，スライドの提示順位は１試料ずつランダムとし，検査は1992年４月に行った．

結果および考察

1．形　態

ＳＤ法による５段階評定の結果を数値化し，群平均法によるクラスター分析により形態の分類を行った結果を樹系図にして図２に示した．類似度70でＡ～Ｅの５クラスターに分類され，各クラスターのクラスター内平均に近い形態４種をあわせて図中に示した．

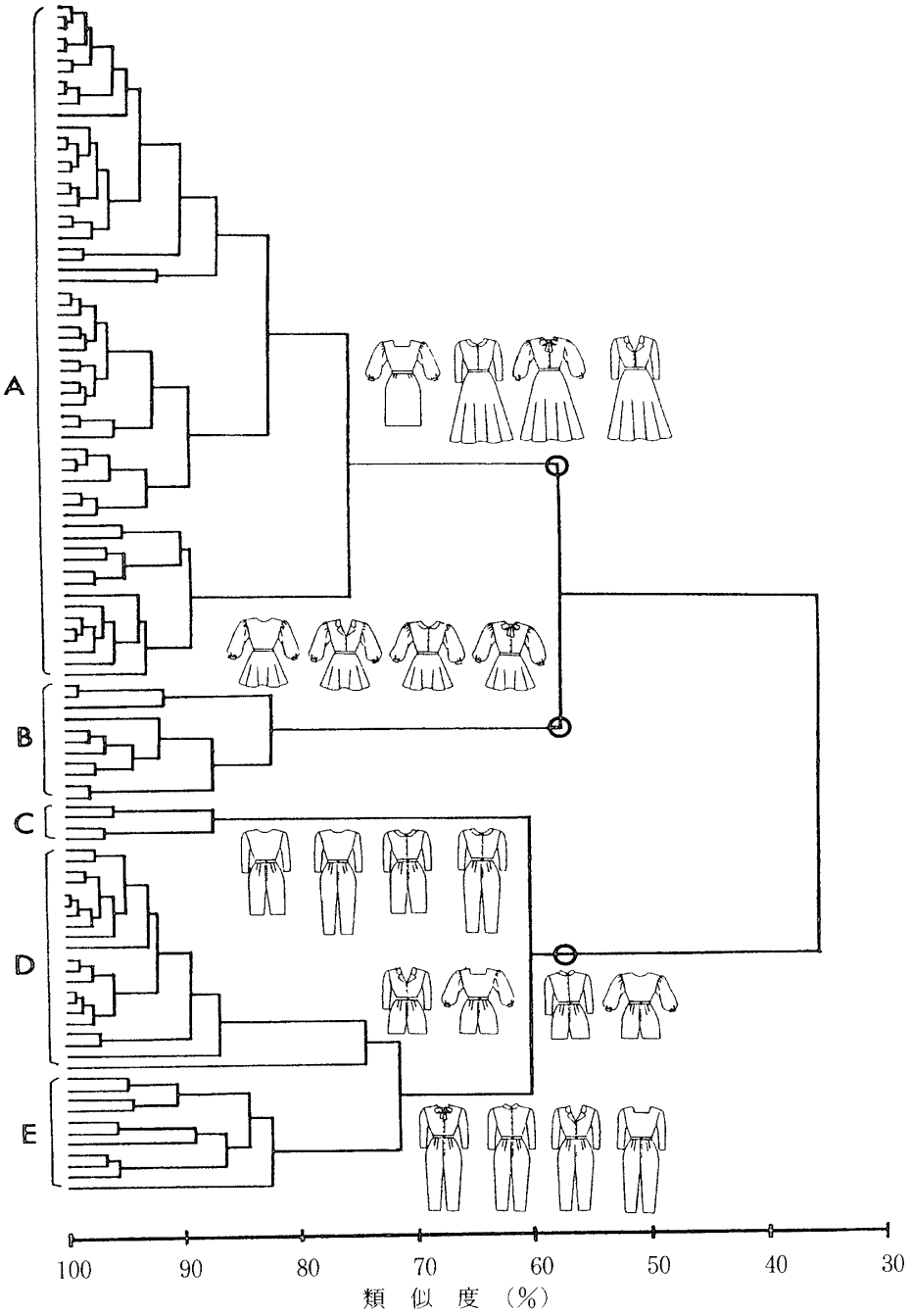

図２　形態のクラスター分析結果（樹系図）

まずＡクラスターには，108試料中61試料と最も多くの形態が出現し，その内容としてはボトムにタイトスカートを組み合せた試料すべてと，フレアースカートの中間の丈と長い丈が出現した．Ｂクラスターは11試料が出現しているが，全て丈の短いフレアースカートとの組み合せであった．Ｃクラスターに出現した４形態は，ラウンドネックとフラットカラーのいずれもタイトスリーブのブラウスに，長い丈と中間の丈のパンツを組合せた試料であった．また，Ｄクラスターは中間の丈と短い丈のパンツが，Ｅクラスターでは，丈の長いパンツが出現している．これらの結果はいずれもボトムの違いが中心となって分類されており，ボトムがパンツであるか，スカートであるか，あるいは丈が短いか，長いかが大きく影響しているといえる．

次にこれらのイメージに，形態のどのようなアイテムが影響しているかを検討するために，数量化Ⅱ類[4]により分析を行い，各アイテムのカテゴリー別ウエイト，レンジ，偏相関係数を表３に示した．

まず「やさしい―きつい」については，ボトムのレンジが2.299，偏相関係数が0.767と最も大きな値を示し，そのウエイトから，フレアーが「やさしい」，パンツが「きつい」に大きく関与しているといえる．「積極的な―消極的な」「陽気な―陰気な」には，ボトムの形態および丈のレンジ，偏相関係数が高い値を示し，大きく影響するといえる．また「陽気な―陰気な」にはボトムの形態および丈に加えて，ブラウスのそでの形態の影響もやや認められた．「男性的な―女性的な」にはボトムの形態の偏相関が1.0を示し，他のアイテムは全く影響しないという結果であった．「上品な―下品な」はボトムの形態の偏相関係数が0.848と最も高い値を示しており，次いで丈が影響し，短くなるほど「下品な」と評価されている．「大人っぽい―子供っぽい」については，ボトムの形態および丈の影響が大きく，形態としてはタイトスカートが，丈では長いものが「大人っぽい」と評価されている．「奇抜な―平凡な」「派手な―地味な」についても，ボトムの形態及び丈が大きく影響しているが，その他にブラウスのえりの影響も大きく，テーラーカラー，ボーカラーが「奇抜な」「派手な」と評価され，逆にラウンドネック，フラットカラーなどが「平凡な」「地味な」と評価されている．この結果は，先のクラスター分析におけるＣクラスターと同じ形態が抽出されており，関連性がうかがえる．「おとなしい―荒々しい」「好感がもてる―好感がもてない」もボトムの形態の影響が最も大きいといえるが，「好感がもてる―好感がもてない」については，他の形容詞対に比べ相関比が0.293と低く，これらのアイテム以外の要因も大きく関与していると考えられる．

２．　色彩（色票）

10形容詞対における各形容詞を最もイメージする色彩として101名の結果を集計し，出現頻度の高い色彩の上位３色を表４に示した．

まず，「やさしい」にはペール，ライトトーンといった高明度の赤が，「きつい」には高彩度の紫，赤紫，赤が選択されている．「積極的な」「陽気な」には赤，黄赤などの暖色系の高彩度の色彩があげられているが，対語である「消極的な」には高明度の色彩が選択されているのに対し，「陰気な」には低明度の色彩が選択され，両形容詞間には大きな差が認められている．「男性的な」については青色相の比較的低明度の色彩が選択されているのに対し，「女性的な」では赤色相の高明度の色彩が選択され，両者は色相，明度ともに反対色がとられている．また，「上品な」で選択された各色はいずれもライトトーンの色彩であるが，その対語である「下品な」については紫色相の２色が選択されており，両色彩の対の関係は認められなかった．「大人っぽい」において選択されている色彩は暗い赤紫，暗い赤，黒などの低明度の色彩であるが，対語である「子供っぽい」ではピンク，黄などが選択されおり，明度が影響していると考えら

表3　形態におけるアイテム，カテゴリー別ウエイト，レンジ，偏相関係数

アイテム	カテゴリー＼形容詞対	やさしい／きつい ウエイト	レンジ 偏相関	積極的な／消極的な ウエイト	レンジ 偏相関	陽気な／陰気な ウエイト	レンジ 偏相関	男性的な／女性的な ウエイト	レンジ 偏相関	上品な／下品な ウエイト	レンジ 偏相関
そで	タイト	-0 096	0.192	-0 100	0 200	-0.487	0.974	0.000	0 000	0.024	0.048
	ギャサー	0.096	0 119	0.100	0 122	0 487	0 496	0 000	0.000	-0.024	0 041
えり	ラウンド	0 096	0.575	-0.250	0 899	-0.282	0.769	0.000	0 000	-0 024	0.436
	スクエア	-0.048		-0.250		-0.128		0 000		-0.315	
	フラット	0.240		-0 250		-0 128		0 000		0 121	
	テーラー	-0 335		0 649		0.179		0 000		0.121	
	ボー	0 239		0 200		0.487		0 000		-0.024	
	台えり付	-0 192	0.259	-0.100	0.378	-0 128	0.289	0.000	0 000	0 121	0.255
ボトム	タイト	0 240	2.299	-0 399	1.497	-0 897	1 461	-0 707	2.121	0.703	2 036
	フレアー	1 030		-0 549		0.333		-0 707		0 630	
	パンツ	-1 269	0 767	0.948	0.639	0 564	0 601	1.414	1 000	-1 333	0.848
丈	長	0.168	0 431	-0 699	1 572	-0.743	1.230	0.000	0 000	0 412	0 654
	中	0 096		-0 175		0.256		0.000		-0 170	
	短	-0.263	0 230	0.873	0 628	0 487	0 531	0.000	0 000	-0 242	0.446
相関比		0.611		0 604		0.579		1 000		0 743	
相関比平方根		0 782		0.777		0.761		1.000		0.862	

アイテム	カテゴリー＼形容詞対	大人っぽい／子供っぽい ウエイト	レンジ 偏相関	奇抜な／平凡な ウエイト	レンジ 偏相関	派手な／地味な ウエイト	レンジ 偏相関	おとなしい／荒々しい ウエイト	レンジ 偏相関	好感がもてる／好感がもてない ウエイト	レンジ 偏相関
そで	タイト	0.149	0.298	-0.290	0.580	-0 376	0.752	0.265	0.530	0.103	0 206
	ギャザー	-0 149	0.184	0 290	0 295	0.376	0 384	-0.265	0 344	-0 103	0 066
えり	ラウンド	-0 099	0.891	-0.637	1.390	-0 430	1.828	0 168	0 866	-0 308	1.439
	スクエア	0 050		-0 116		-0 269		-0 120		-0.308	
	フラット	-0 396		-0 290		-0 430		0 457		-0.103	
	テーラー	0 495		0 753		0 538		-0.409		0.925	
	ボー	0.050		0.579		0 699		-0.120		0.308	
	台えり付	-0.099	0.318	-0.290	0.469	-0.108	0.448	0.024	0 349	-0.514	0.298
ボトム	タイト	0.941	1 560	-0.550	1 477	-0.591	1.209	0 674	1.878	0.206	2.056
	フレアー	-0.322		-0.377		-0 027		0 530		0 925	
	パンツ	-0 619	0.648	0.927	0 575	0 618	0.480	-1 204	0 763	-1 131	0 491
丈	長	0.866	1 633	-0.463	1 129	-0 672	1 532	0.385	0 866	0 000	0.412
	中	-0 099		-0.203		-0.188		0 096		0.206	
	短	-0 767	0.645	0.666	0 458	0 860	0 577	-0 481	0.466	-0.206	0 107
相関比		0.614		0 532		0 550		0.657		0 293	
相関比平方根		0 783		0 729		0.742		0.811		0.541	

表４　各イメージに対応する色彩

（ＪＩＳ記号）

形容詞	出現頻度の高い色票			形容詞	出現頻度の高い色票		
	1位	2位	3位		1位	2位	3位
やさしい	4R8.5/3.5	10R8/8	4R7.5/8	きつい	6P3.5/12.5	6RP4/13.5	4R4.5/14
積極的な	10R5.5/14	4R4.5/14	8YR7/14	消極的な	4GY9/3	5Y9/3	3PB8/3.5
陽気な	10R5.5/14	8YR7/14	8YR8.5/8	陰気な	N3.5	5Y4/2.5	5B2/5.5
男性的な	3PB3.5/13	3PB1.8/6	5B2/5.5	女性的な	6RP7/8	4R8.5/3.5	4R7.5/8
上品な	9PB6.5/8	6RP7/8	9PB8/3 5	下品な	6P3.5/12.5	6P1.8/6	8YR3.5/6
大人っぽい	6RP2/6	4R2.4/6	N1.5	子供っぽい	4R8.5/3.5	4R7.5/8	5Y9/7
奇抜な	5Y8/13.5	6P3.5/12.5	6RP4/13.5	平凡な	N9.5	5Y9/3	3PB8/3.5
派手な	6RP4/13.5	6P3.5/12.5	5Y8/13.5	地味な	5Y4/2.5	8YR4/2.5	4GY4/2.5
おとなしい	5Y9/3	8YR9/3	4R8.5/3.5	荒々しい	6P3.5/12.5	5Y8/13.5	10R5.5/14
好感がもてる	4R7.5/8	10R8/8	N9.5	好感がもてない	6P3.5/12.5	8YR4/2.5	4G3.5/2

れる．「奇抜な」「派手な」「荒々しい」については，いずれも高彩度の黄および紫が選択されているが，それらの対語で選択されている色彩は，３形容詞対とも異なっており，「平凡な」では白および高明度の各色が選択され，「地味な」では低彩度の色彩が，「おとなしい」では暖色系の高明度の色彩が選択されている．なお，「好感がもてる」についてはライトトーンの赤，黄赤および白が選択されているが，「好感がもてない」については高彩度の紫と地味なと評価された低彩度の各色が選択されており，ここでは地味な色彩は好感がもたれないという結果であった．これは評価した被験者が若い女性であることが大きく影響していると考えられる．

以上のようにイメージ用語は対語であっても，色彩については，対になるはずの反対色が選ばれているのは「男性的な―女性的な」の１形容詞対のみであり，その他の形容詞対においては，三属性のいずれかが対応するのみという結果であった．

3．色彩（服装色）

検査の結果を数値化し，各形容詞における最高値を示した試料を表５にあげた．「好感がもてる―好感がもてない」以外の用語については，先の色票による検査結果とかなり近い色彩がトップかボトムのどちらかに着用されている試料が出現しているといえる．

表５　各最高イメージの色彩

（ＪＩＳ記号）

形容詞	ブラウス	スカート	形容詞	ブラウス	スカート
やさしい	N9.5	5R9/2	きつい	7.5R4/14	7.5P3/6
積極的な	7.5R4/14	5Y8/12	消極的な	5R9/2	10B9/2
陽気な	7.5R4/14	5Y8/12	陰気な	N9.5	N1.5
男性的な	10B5/10	N1.5	女性的な	N9.5	5R9/2
上品な	N9.5	10B9/2	下品な	7.5R4/14	6P3.5/12.5
大人っぽい	6P3.5/12.5	7.5P3/6	子供っぽい	5Y9/4	5R9/2
奇抜な	7.5R4/14	7.5P3/6	平凡な	N9.5	5R9/2
派手な	7.5R4/14	6P3.5/12.5	地味な	5R9/2	5Y5/6
おとなしい	N9.5	10B9/2	荒々しい	6P3.5/12.5	7.5R4/14
好感がもてる	N9.5	10B9/2	好感がもてない	7 5R4/14	10B5/10

表6　服装色におけるアイテム，カテゴリー別ウエイト，レンジ，偏相関係数

アイテム	カテゴリー＼形容詞対	やさしい きつい ウエイト	レンジ 偏相関	積極的な 消極的な ウエイト	レンジ 偏相関	陽気な 陰気な ウエイト	レンジ 偏相関	男性的な 女性的な ウエイト	レンジ 偏相関	上品な 下品な ウエイト	レンジ 偏相関
ブラウス	赤高彩度	-1 189	2.224	1.003	2.023	1 079	1 821	0 720	2 797	-1.057	2.559
	赤高明度	0 463		-0 480		-0 079		-0.812		0.545	
	黄高彩度	-0.839		0.970		1.045		0 759		-1.057	
	黄高明度	0.527		-0 550		-0.252		-0 487		-0.077	
	青高彩度	-0.839		0 970		-0 283		1 985		-0.743	
	青高明度	1.035		-1.020		-0.658		-0 506		1 079	
	紫高彩度	-1.125		0.902		0.534		-0 238		-0.994	
	紫高明度	0.984	0.769	-1 034	0.740	-0 497	0.617	-0.762	0 711	0.600	0 804
	白	0 756	(0 692)	-0 550	(0.603)	-0 742	(0.388)	-0.487	(0.738)	1 502	(0 701)
スカート	赤高彩度	-1 200	2 161	1.015	1.602	1.129	1.927	-0.334	1.714	-0 784	1.508
	赤高明度	0 262		-0 502		0.311		-0.526		0.347	
	赤低明度	0.340		-0.587		-0.798		-0 128		0.138	
	黄高彩度	-0.215		0.678		0.788		0 049		-0.784	
	黄低明度	0.340		-0.587		-0.798		-0.128		0.138	
	青高彩度	-0.215		0.678		0 959		0.202		-0.124	
	青高明度	0 961		-0.569		0 097		-0.488		0.724	
	青低明度	0 340		-0.291		-0.798		0.545		0.414	
	紫高彩度	-0 564		0.004		1.060		-0.833		-0.156	
	紫低明度	0.218	0.584	0.597	0 597	-0.499	0 687	0 545	0.501	0.138	0 532
	黒	-0.061	(0.692)	-0.291	(0 485)	-0.798	(0.388)	0.881	(0 561)	-0.138	(0.588)
相関比		0.648		0.624		0 588		0 570		0.678	
相関比平方根		0.805		0 790		0.767		0 755		0.823	

アイテム	カテゴリー＼形容詞対	大人っぽい 子供っぽい ウエイト	レンジ 偏相関	奇抜な 平凡な ウエイト	レンジ 偏相関	派手な 地味な ウエイト	レンジ 偏相関	おとなしい 荒々しい ウエイト	レンジ 偏相関	好感がもてる 好感がもてない ウエイト	レンジ 偏相関
ブラウス	赤高彩度	0 386	2.203	1.100	1.911	0.939	1.697	-1.266	2.242	-0.976	1 972
	赤高明度	-0 238		-0.311		-0.465		0.597		-0.030	
	黄高彩度	-1.119		0.811		0.939		-0.666		-0 976	
	黄高明度	-0.542		-0.622		-0.529		0 449		0.092	
	青高彩度	0.423		0.747		0.875		-0 919		-0.638	
	青高明度	0.093		-0 856		-0 975		0 976		1 356	
	紫高彩度	1.084		0.068		0.939		-0 951		-0.909	
	紫高明度	-0.276	0.532	-0 852	0.749	-0.758	0 777	0 903	0.753	0.820	0.749
	白	0 249	(0.697)	-0.852	(0.598)	-0.758	(0.603)	0.676	(0.695)	1.063	(0.701)
スカート	赤高彩度	-0.773	2.205	1.116	1.912	0 959	1 515	-1.287	2 466	-0.987	1 960
	赤高明度	-1 214		-0.327		-0.477		-0 118		0 466	
	赤低明度	0.669		-0 425		-0.556		0.255		0 318	
	黄高彩度	-1.324		0 764		0.959		-0.276		-0 987	
	黄低明度	0 669		-0.707		-0.556		0.532		0 319	
	青高彩度	-0 406		0.122		0 321		-0.308		-0.278	
	青高明度	-0.810		-0 712		-0.540		1 179		0 973	
	青低明度	0.669		-0.425		-0 556		0.255		0 319	
	紫高彩度	0.401		0.796		0.959		-0 623		-0 311	
	紫低明度	0.991	0.657	0.419	0.644	0 284	0.700	-0.022	0 627	0.319	0.599
	黒	0.669	(0 395)	-0.425	(0 598)	-0.556	(0.485)	0.255	(0 782)	-0 275	(0.588)
相関比		0.527		0.650		0 698		0.646		0.631	
相関比平方根		0 726		0.806		0 835		0.804		0 795	

まず，ブラウスにおいてはN9.5の白が全体的に多く出現しており，「やさしい」「女性的な」「上品な」「平凡な」「おとなしい」「好感がもてる」などのプラスのイメージに多く出現している．しかし，同じ白のブラウスでも黒のスカートを着用した場合は「陰気な」で最高値を示しており，組み合せにより大きくイメージが異なるといえる．また7.5R4/14の高彩度の赤も多く，「きつい」「積極的な」「陽気な」「下品な」「奇抜な」「派手な」「好感がもてない」と評価されており，プラスのイメージとマイナスのイメージのどちらにも出現している．この結果も白のブラウス同様組み合わせるスカートの色彩によって評価が異なるといえる．なお出現した服装色は色票と同様，イメージ用語は対語であっても，色彩は必ずしも反対色にならないという結果であった．

次に，数量化II類により分析を行った結果を表６に示した．カッコ内の偏相関係数はブラウスとスカートの使用色の中で共通に用いた色彩のみを取りあげ，再度解析した係数である．

カッコ内の偏相関係数より「おとなしい―荒々しい」においてはスカートの色彩の影響が大きいがその他の形容詞対においてはスカートの色彩に比べ，ブラウスの色彩の偏相関係数の方が高い形容詞対が多く，特に「積極的な―消極的な」「男性的な―女性的な」「上品な―下品な」において顕著である．また色彩の影響については，「男性的な―女性的な」を除く９形容詞対において高彩度の赤のウエイトがブラウス，スカートとも高くなっているが，これらの高彩度の赤の対極のウエイトとして「やさしい」では高明度の青が，「消極的な」には高明度の紫が高い係数を示している．また「陰気な」についてはブラウスでは白が，スカートでは低明度の各色と黒が高いウエイトを示している．「男性的な」については，ブラウスの高彩度の青が，逆に「女性的な」には，高明度の赤が大きく影響するという結果であったが，この高彩度の青はブラウスで使用される場合は，「男性的な」に大きく寄与するが，スカートに用いられる場合の寄与は低く，また高彩度の赤についても，ブラウスでのウエイトはプラスであるが，スカートにおいては逆の結果となっている．「大人っぽい―子供っぽい」については，ブラウスの高彩度の紫が「大人っぽい」に大きく関与し，逆に高彩度の黄が「子供っぽい」に関与するという結果が得られ，色票と同じ結果といえる．また，「大人っぽい―子供っぽい」「派手な―地味な」「好感がもてる―好感がもてない」についてはいずれもスカートの色彩よりもブラウスの色彩の偏相関係数の方が高いという結果であった．さらに「好感がもてる―好感がもてない」については，先の形態の数量化II類の結果においては高い相関比が得られなかったが，この服装色についての結果では0.631と高い相関比が得られた．

以上のように，ブラウスとスカートで同じウエイトを示す色彩は少なく，色そのものにイメージがあっても被服に用いる場合，トップに用いるか，ボトムに用いるかによって着装イメージへの寄与はかなり異なることが明らかになった．

要　　約

前報より着用する被服によって印象はかなり異なり，特徴のある服種ほど着用者間のイメージの差が小さくなるという結果が得られたため，本報では対人認知に関するイメージに大きく関与する形態のアイテムおよび色彩の要因について検討を行った．

その結果，形態についてはクラスター分析，数量化II類いずれの結果もトップの形態よりもボトムの形態の方がイメージに大きく関与することが明らかになった．また，ブラウスのアイテムとしてはわずかではあるが，えりの形態の影響が認められた．

色彩については，ブラウスとスカートで同じウエイトを示す色彩は少なく，色そのものにイ

メージがあっても被服に用いる場合，トップに用いるか，ボトムに用いるかによって着装イメージへの寄与はかなり異なることが明らかになった．

さらに，イメージ用語は対語であっても，色彩ではほとんどのイメージにおいて反対色は出現せず，三属性のいずれかが対応するのみという結果であった．

文　　献

1）石原久代，鈴木妃美子；名古屋女子大学紀要，**41**，37～44(1995)
2）岩下豊彦；ＳＤ法によるイメージの測定，17～62，川島書店(1983)
3）石原久代，横山寿子，酒井清子；日本繊維製品消費科学会1995年年次大会発表要旨集，112～113(1995)
4）林　知己夫；データ解析の考え方，東洋経済新聞社(1977)